

第 35 回県本部総会

9月26日(日) 10時~12時半

高松市まなびCAN 視聴覚室

第1部

講演と「映画製作・上映を支援する香川の会」設立集会

講演 藤田 廣登 さん

映画は10月から撮影を開始、来春3月15日
試写会、5月には全国公開を目指しています。

第2部県本部総会

(学習し、さらに行動す)
同盟へ

総会後、短時間の総選挙決起集会を行います。



香川 279

2021.8.15

治安維持法関係調査

香川県本部

高松市東江町安原下

1-649-22

電話087(897)0004

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する悪法であると認めること。
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

「平和のための戦争展」開催

8月1日、2日の両日、香川県青館で開催しました。
夏休みで親子づれで原爆の写真。パネルに見入る姿
や折鶴を作る様子。印象的でした。参加は約百人
でした。

8・15日街頭宣伝

八名で取り組みました。コロナ感染で昨年より
人数は少なかったが、祖父が戦死した若者が自か
ら署名してくれました。初参加が二名でした。

9月の理事会

9月21日(火)午後3時半から岡田事務所

へお詫び

不届の送達がたいへん遅れました。すみません。

壺井 栄



壺井栄は、一八九九(明三二)年八月五日、小豆島の坂手村(現内海町)に生まれた。父は岩井藤吉、母アサ。栄は一〇人兄弟姉妹の五女。父は腕のよい樽職人だった。が、栄が小学校の頃、蔵元の倒産などで、家運は傾いた。その後、苦勞を重ねながら尋常小学校の高等科を卒業する。

一三、四歳の頃から、栄は読書が好きでよく本を読んだ。一家の生計を立てるため、一九一五(大四)年一六歳で、郵便局に勤めるようになる。そして、勤めの際ら夏目漱石や、有島武郎を耽読した。この頃、一ツ年上の黒島伝治と知り、のちのちまで交際をもつことになる。

一九二二(大一一)年、二三歳の時、栄は郵便局から村役場に移り、月掛け五円の頼母子講に入り、土地ぐるみ四五〇円の古家を手に入れた。

黒島伝治は先に、徴兵検査で甲種合格となり、姫路の歩兵一〇連隊に衛生兵として入隊していた。二一(大一一〇)年のシベリア出兵で、伝治もシベリアに派遣されたが、肺炎の疑いで入院。七月には兵役免除となった。そして、島に帰って療養中の伝治と、栄は再び文学的交友を深めた。

一九二五(大一一四)年、かねて文通のあった壺井繁治の誘いを受けて、小豆島を出、千葉県銚子市の日昇館へ赴く。そして二月に繁治と結婚し世田谷の三宿に住んだ。四月から、太子堂町の二軒長屋の借家に移り住んだ。

栄は、繁治を通じて、林芙美子や、平林たい子を知ったが、そのアナキーな生活にはなじめなかった。繁治は、一九二七(昭二)年、アナキストのグループから離脱する。この時、テロによって左腕を骨折させられた。

一九二八(昭三)年、繁治は左翼芸術同盟(左芸)を結成し、事務所を自宅においた。そのため多くの者が足

しげく出入りし、栄は暗い方となって、一カ月に米八斗を炊いたという。なお左芸は、三月の全日本無産者芸術連盟(ナツプ)結成によりこれに統一された。

この年七月、繁治は検挙された。初めてだったため、栄のショックは大きかった。生活は苦しく、栄は『女界』の募集した生活記録に応募し「プロ文士の日記」を送り、翌年入選発表された。

こうして彼女は、一九三〇年以降、夫の受け持っていた「戦旗社」の事務員となり、再三検挙される夫を支え、今野大力らと「戦旗」の発行に献身的に働いた。一九二九(昭四)年、繁治は帰島中に再度検挙。治安維持法違反で起訴された。

一九三四(昭九)年、繁治は上申書の再提出で保釈、出獄した。この年は、ナルプが二月に、コップが四月に解散した。栄は、宮本百合子の母の遺稿集の編集を手伝ったり、家事の手伝いをしたり、口述筆記を取ったりした。

その間の、一九三二年には、栄は短編「屍を越えて」を書いたが、未発表。

一九三三年二月二日の深夜、東京築地署での、三時間にわたる拷問によって死去した小林多喜二の遺体を迎える人びとの中に、栄の姿があった。この時、彼女は多喜二の指と指の間をきれいに拭き清め、多喜二の母に、いたく感謝されている。

一九三五(昭一〇)年、宮本百合子の推薦で、小説としては処女作ともいえる短編「月給日」を『婦人文芸』に発表。この年、彼女の創作「廊下」のモデル今野大力が死んだ。

一九三六(昭一一)年、「大根の葉」を執筆。宮本百合子の力添えで、三七年の『文芸春秋』に、載るようになっていたが実現せず、三八年の『文芸』によりやく発表された。

この頃から、生活もやや落ち着き、腰をすえて創作にうち込めるようになった。四〇年「廊下」を『文芸』に、「曆」を『文学者』に発表し、またこの年創作『曆』によって、第四回新潮文芸賞を受賞した。

壺井 栄
壺井栄は結婚後、夫繁治のたたかいを支え、また困難な生活のなかで、地道に、誠実に、弾圧の嵐のもとにおかれたプロレタリア文学運動の仕事のために、献身的に働いた。その生活と、階級的たたかいに培われた堅忍と

映画「伊藤千代子の生涯」制作・上映のため

「映画製作・上映を支援する香川の会」設立集会



— 伊藤千代子の生涯 —

まっすぐにものを言える日本にしなくては。

幅広いたくさんの皆さんの力をお寄せください。

とき 9月26日(日)午前10時～12時

ところ 高松市まなびCAN 視聴覚室

講演 藤田 廣登 さん

(「時代の証言者伊藤千代子」著者)



熱く伊藤千代子を語る藤田氏

【講演内容】 —伊藤千代子の生涯とその時代—

諏訪高女時代 土屋文明の薫陶を受ける

「婦人論」を読んでジェンダー平等への目覚め

多喜二と千代子 時代が結んだ青春

呼びかけ団体 治安維持法犠牲者国賠同盟香川県本部

問い合わせ先 090-7572-1331 田中 090-6317-3876 孝岡 090-8697-2326 仲亀

(講演後国賠同盟香川県本部の総会を開きます)